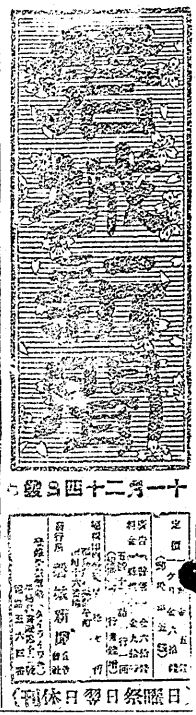
〔第三種郵便物認可〕　昭和八年十一月二十五日　磐城新聞　〔土曜日〕　第三千八百八十六號　〔一〕

夕刊



十一月二十四日發行

貴重の炭鑛研究

發達史と現狀及將來

吉川生

(13)

是れより先經營の主目的採炭地域である東部炭層、即ち上好間、中好間、下好間方面の採炭をなすために大正六年頃より上好間岸に大規模な竪坑の開鑿を始め小館地域に坑夫長屋、忽滑に役員住宅を建築し、使用電力は日立電力會社より買電 目的で大正十年に日立電力所を由下に建設し後更に自家使用及日立賣電の計劃で自家發電をなすために北好郡字小田郷に粉炭使用のみの發電所を起して全く模範的機構の炭坑として大正十二年經營時代に入り一日出炭は約一千噸位最大能力は一日四千噸の計劃を立てた。然るに大正十三年十月溫泉の不時の出水（一分間約九百立方尺）遺憾乍ら水浸となり又百萬の大企業も今は只水中の寶となりて鐵骨コンクリートの櫓のみが無念にその殘骸を崖上にさらしてゐる。でも此の出水は機械力によつて揚水し得ないのではなくて只費用の問題であるから今後に於て採算可能の經營を見る時代が到達すれば再生復活して古の盛時を思はしむる時期の到達するのを信ずる（此の竪坑は模範的炭坑として尊重小學地理書の挿繪にもされてある）此の水浸は地方經濟界をはじめその他の各種の機關に非常な影響を及ぼし、世人に前途の不安を與へた事も多かつた。即ち坑夫の大部は解雇されてそれと共に學校の縮少、地方農家、商店の經濟的打撃、村政治の收入減等枚挙するや直ちに第一新斜坑の開坑に着手經營時代には一日平均五百噸の出炭をなし昭和六年採掘を終了した。この間に機械的合理的採炭法を完成して女坑夫の全廢なる大設備を要する個所は全く殿の仰せの通り染谷が巣して相手にその心底行動を見破られたかどうかといふ事だ、女だ、女は魔性とか、自分のたくらみをよも相手に氣づかれるやうな事はあるまいと思はれるがよし氣付かれたにしろ』

其處で淺野は言葉を切つてしまつた

『よし、氣つかれたにしろ

の改良、ダムの設置等をなして之に備へ、竪坑の水浸するや直ちに第一新斜坑の開坑に着手經營時代には一日平均五百噸の出炭をなし昭和六年採掘を終了した。この間に機械的合理的採炭法を完成して女坑夫の全廢なる大設備を要する個所は全く殿の仰せの通り染谷が巣して相手にその心底行動を見破られたかどうかといふ事だ、女だ、女は魔性とか、自分のたくらみをよも相手に氣づかれるやうな事はあるまいと思はれるがよし氣付かれたにしろ』

其處で淺野は言葉を切つてしまつた

『よし、氣つかれたにしろ

三人集

採原北斗

○冬山の日ざしはぬくし踏みのぼる落葉乾きて音もこそすれ

○松山ゆ出で來る少女背負ひたる松葉は木々に觸れてこぼれぬ

○明るくぞ春日さし照らふ山谷にあつまりて來る百鳥のこゑ

○底ひ透くる川みづに落ち沈むもろもろの枯葉見えて靜しも

潮聲視靜抄帳

十月集

雜詠　當季　天野雨山選

洞門を出でたる峽や雁渡る　枯葦

遠花火見つゝ嶺路急ぎたり　翠山

醉覺めて山氣身に入む紅葉かな

霧の海靜かに朝日昇りたり

干柿の影おとしゐる障子かな

蜘蛛の圍に露置く杉の垣根かな

秋雨やいよ〳〵濃ゆき閨の縞　武門

夜長人算盤はじきなどもして

木洩日に鳴きつのりたる圍かな

晩秋の川前に遊ぶ

蓮沼生

日は酒屋組合の公休日だ、自分達にとつて一番たのしい日なのです、案じられた空模様もすつかりなほつて、青く澄んだ大空に白いちぎれ雲が東の空に緩やかに流れてゐる

陽はうらゝかに照つてゐる以上、一刻も早うにするがよい、しかし救援するのが必要と考へまり深入りするではない』

さう云つて佐吉の申出を氏の講演あり出席者百餘名會場裡に午後四時閉會した

四倉信組總會　四倉町信用購買組合第十三回組合員總會は來る廿日午後一時より同町小學校内に開催する

平驛團体募集　平驛では例年の如く新春一日より一週間の伊勢參拜の團体を募集するが費用は概算三割引）で來

△今上天皇攝政に御就任（大正十）△陸軍

11月25日——木炭自動車運行の試驗を行ふ（昭和五）△我軍新民屯に入城す（同六）△第三十一回國西銀行大會を大阪で開く（同七）

講談

幕末神風組

(65)

土生太郎作

高根秀浩書

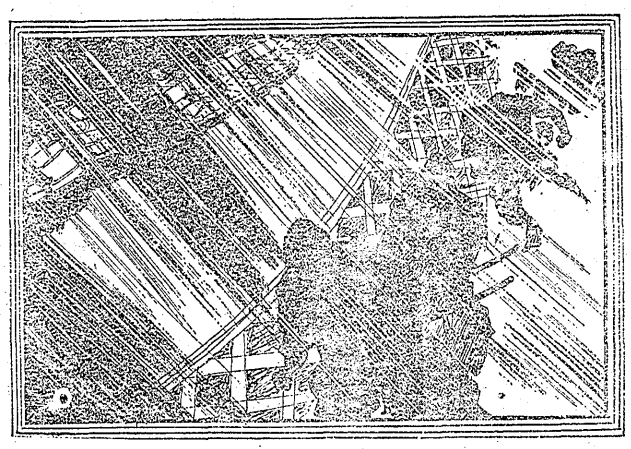
施風陣　(四)

『神風組、何ほどのことが味方にある以上、一刻も早うにするがよい、しかし救援するのが必要と考へまり深入りするではない』

さう云つて佐吉の申出を氏の講演あり出席者百餘名會場裡に午後四時閉會した

四倉信組總會　四倉町信用購買組合第十三回組合員總會は來る廿日午後一時より同町小學校内に開催する

平驛團体募集　平驛では例年の如く新春一日より一週間の伊勢參拜の團体を募集するが費用は概算三割引）で來



板本は染香は放つて置いても大事ないと云ふ、然し一同は不安を感じないではゐられなかつた

それは佐吉の云ふ通りだ染香は女である、一度彼女が佐吉親分を救援したことが分れば鷲につかまれた雛鳥同樣、一たまりもなくやられてしまふことは火を見るよりも明らかなことである

とは云へ、板本が大事ないといふものを押して援けに行く事は出來ない

佐吉は自分の身体の疲れも忘れて染香の事を憂へてゐた、それが皆にもよく判つた

『俺はどうしても此のまゝ染香を見殺しにする事は出來ない、そんなことをしたら俺の男がすたる……』

佐吉は歯ぎしりして云つた

『如何にもそれは親方のいふ通りだ』

『我々の手だけで染香を救ひ出さうか』

佐吉は淺野の言葉が氣に入つた

『うむ、それがな今もいふ通り女は魔性ぢや、何とかうまく切り抜けても來やうと、これは殿の御意見ぢやが……』

最後に斷言してから云つた

佐吉等は取りつくすべもなかつた、彼等は只固く押しだまつて考へて居るのみ又、雨の音が激しく人々の鼓膜を打つ

——救ひ出すには屈竟な晩であるのに——

佐吉は考へてゐた

重い、固苦しい沈默だ

暫くしてから佐吉ふと頭

校舍增築の歡び

明廿二日から二日間

第三小學校の催し

お上り小法師　唱遊　一ノ三鈴木寛子外十名

雛子打鉦さん　齊唱　三ノ二女全

菅公　同　五男全

お玉しやくし　唱遊　二ノ三鈴木眞志子外廿名

牧場の朝　齊唱　四男寺内武彦外三十名

木の葉　同　一ノ二全

練習曲　ピアノ獨奏　三ノ二松崎幸子

きのこ取　齊唱　三ノ三女全

森の歌　同　六男卅五名

しだれ柳　唱遊　二ノ二遠藤文子外二十名

こほろぎ　同　四女永島佳子外十三名

誰がした　合唱　五女二十五名

日本三景　唱遊　三ノ一女全

いてふ　獨唱　五男松崎惣兵衛

風　齊唱　六女高田秋子外三十名

蛙の夜まはり　レコード伴奏　二ノ一三森孝子外一人

兒島高德　合唱　五六有志

四倉通信

女青秋季總會

けふ四倉小學校で

雨足がくつきりと白く去

ザ、ザ、ザ、ザ——

お前は俺をたいてきぼりしたまま

色のなま白いにやけた男と手に手を取つて

お前は秋雨にけぶる淺草六區の

街を後に

倒ひ主のない泥棒猫の樣に

そつと逃げる樣にして

此の六區から姿を消したね

今まで明るかつたエンコも辨天山の鐘の音も悔に疲れたのか

淋しく變へ

お前と一緒にフオツクストロツト、ブルースを樂しく笑つて

踊つた明るい部屋も

今はあまりにもハツキリと見える

暗い冷い佗しい我が部屋よ

あ！夜が來れば想ふ

亦今夜もねむれぬ

俺はお前の魅惑の帶をといて以來

一年近くのお前との思ひ出に

俺の頭は興激にこんがらがつて行く

失望と苦惱と憎惡に

俺の心臟は暴風の樣に荒れくるふ

ところが幸か不幸か俺は悲しい時に泣く事しか知らない

男にすぎなかつた

ハイドの眼の樣に凄く光つた

淺草六區の電燈の灯影は俺の女々しい心を嘲笑してゐるのか

今日此頃の煩慮に疲れた我が生の暗さよ

〔社會の一今日〕

○霜がれのとなりの地所で子供らとボール投げる日課の寒さ　服部嘉香

知る者は言はず言ふ者は知らず　老子

×

午後に入りて風さら〳〵癒されるものです、三時少し前歸路につく

×

浴邊の風光を愛でつゝ江田信號所に至る、松の青さに楓、紅葉の朱、あまたなとすき初めぬ、木立細やかし前

×

谷を繞り岩をめぐる

靜謐な思ひに浸る時一月間の疲れは今日一日によつて

去つた女

古川哲夫

お前は秋雨にけぶる淺草六區の

街を後に

倒ひ主のない泥棒猫の樣に

そつと逃げる樣にして

此の六區から姿を消したね

今まで明るかつたエンコも辨天山の鐘の音も悔に疲れたのか

淋しく變へ

お前と一緒にフオツクストロツト、ブルースを樂しく笑つて

踊つた明るい部屋も

今はあまりにもハツキリと見える

暗い冷い佗しい我が部屋よ

あ！夜が來れば想ふ

亦今夜もねむれぬ

俺はお前の魅惑の帶をといて以來

一年近くのお前との思ひ出に

俺の頭は興激にこんがらがつて行く

失望と苦惱と憎惡に

俺の心臟は暴風の樣に荒れくるふ

ところが幸か不幸か俺は悲しい時に泣く事しか知らない

男にすぎなかつた

ハイドの眼の樣に凄く光つた

淺草六區の電燈の灯影は俺の女々しい心を嘲笑してゐるのか

今日此頃の煩慮に疲れた我が生の暗さよ

最も新らしき
シヨールは
中野洋品店
平・電53・二

紳士型　五・五〇　ファー中折帽　特賣

磐城女子洋裁專門學院
入學每月初日
（此の際入學者は隨時入學を許可す）
ミシン無料貸與（材料實費の方法もあり）
平町白銀町十五番地
（詳細…學則郵券二錢）

生徒募集

奧樣方の爲め持に隨意科が設られてあります。
每日定期に通學の出來ない方々の爲の回數券制度……

耳鼻咽喉科專門
平町田町七〇番地
山内醫院
入院隨意
醫學士山内亨吉
病室完備
電話六九一番

「家庭の裁縫は」
ミシンの時代」
シンガーミシン見切特價品整理販賣
シンガーミシン七圓月賦販賣の元祖
シンガーミシン家庭の不要品高價買入
シンガーミシン部分品一式修繕中古品
安心して買へるシンガーミシンの賣店
ミシン會社の賣品は責任保證附
平町田町大通り
シンガーミシン會社
石城双葉販賣部

電話新設參七七番
高級塗下駄　平町五丁目四（釜屋隣り）
流行草履　雨傘　其他
田口はき物店

移轉御知らせ
皆樣急に寒くなりました、御變もありませんか御伺申上舛。
弊店儀此度大一屋西隣りに移轉しましたから何卒舊に倍し御贔負を御願申上舛。
二丁目十二　大一屋西隣
根本時計店
電話六四七番

旭屋一六銀行
當分夜間九時迄取扱
平町三丁目
旭屋商店
電話四二五番

醫學博士　難波睦
內科　小兒科
平町新川端櫻堤
電五〇二
（…入院隨時…）
看護婦募集

一町七村の生命線！
小川江水路改修起工式
來賓多數けふ盛大に擧行

小川江筋水利組合の水路改修は工費十萬三千五百圓を以て八、九二ヶ年繼續の匡救工事（外縣工事廿萬三千七百圓）として愈々近く着工する事となり今二十四日午前十時から下小川大字關場源水門に於て畑山知事代理市橋技師がら本江筋の起元、今日に至る經過、之れが改修完成によつて生ずる福祉增進の關係等を織り込んだ祝辭左記管理者長瀬事務官、鈴木代議士及井上縣議其他の祝辭あつて閉式、現場に於て立食の清宴を張り一時終了した

縣工事費廿萬三千七百圓は目下開會中の縣會に提案され九年度には三千七百圓十年度から四ヶ年繼續毎年五萬圓づゝ十三年度を以て完成する事とし右の財源として國庫補助九萬九千三百五十圓、縣負擔三萬五百五十六圓、組合負擔七萬三千七百九十四圓を計上し大體國庫補助四割五分を交附される事になつてゐる

祝辭

茲に本日の吉辰をトし知事閣下御貴臨の下に磐城小川江筋改良工事地鎭祭及起工式を擧行せらるゝ不肖管理者たるを以て本席に列するは洵に光榮に堪えざるなり、抑々磐城小川江筋の開鑿を按ずるに慶安三年六月旱魃なるを以て藩主內藤侯臣澤村勘兵衛勝爲をして大野鄕の諸村を檢分せしめらる（中略）其功績と恩澤に依り小川村より四倉に至り揚、全員捧げ銃の裡に喇叭一町七ヶ村反別千二百餘町歩は旱魃と雖とも豐穰を見さるはなし、之れ澤村公の恩澤に因らすんばあらず然りと雖も開鑿以來二百七十餘年間を閱る其の施工又舊時の態の儘にして未だ完全と言ふ事を得ず、年々多額の工費と勞力を以て改良を加ふると雖も動もすれば破堤し又は漏水し流末に滿量の水を注ぐを得さるの感あり、茲に於て昭和三年六月本組合は決議を以て之が改良工事の施行を請願したるが其の時期に到達せず、尙ほ怠らず請願したるに漸く其の請を容られ昭和七年六月農林省より技師を派遣せられ調査の結果、昭和八年度に跨り匡救事業として工費拾萬三千餘圓を以て施設せらるゝに決定し、本日其の地鎭祭及起工式を擧げらる洵に欣喜に堪へざるなり、之れ畢竟知事閣下始め、縣當局の御明察と縣會議員各位其の他の厚き御同情の御盡力の結子と深く感佩し措く能はざる所なり、茲に本日の式典を以て施設の先人苦心の跡を偲び本組合の歷史に鑑み益其の組合の使命の重大なるを會員が參集する管で盛會を思ひ一致協力以て其の重責を完せざるべからず謹で蕪辭を述べて祝辭とす

昭和八年十一月廿四日

磐城小川江筋普通水利組合管理者
地方事務官　長瀬英一

祝辭

小川江筋普通水利組合水路の改修は、之を以て生存上の大動脈とせる關係町村多年の懸案なりしが愈々實行の機運至り、本日茲に起工の式典を擧げらるゝは寔に慶祝に禁へざるなり。惟ふに國運の隆昌發展を期する、其の方策蓋し多々あるべしと雖も古來農業を以て立國の大本とせる我國に於ては先づ以て灌漑水利の根本的改良により農業資源の開發增殖を圖るも亦最大急務たるは失はす。本江筋の沿革を遡るに遠く承應年間、地方產業開發の偉人澤村勘兵衛勝爲公の献身的の努力によつて其基を拓かれて以來、惠澤永く今日に及べり、先人の苦闘豈夫れ沒すべけんや、當今村閭の疲弊益々深刻を加へ農民を擧げて窮色あり、人口食糧の不均衡は驅つて以て社會の根底を動搖せしめんとす此時に當り大鉈を投じて將に荒廢に瀕せる本江筋の改修を企劃せらる關係農民起死回生的の施設と云はずして何ぞや、將來當局の設計指導其の宜しきに適し組合員協心戮力以てこの大事業を完成せんか萬頃の美田禾穀穎々とし人皆その德澤に非舞來鄕土祭の準備、鄕土室の宮に鄕土史上重要な位置にし陰慘なる農村不安は遠充實に努め今月下旬より來る飯野古文書を調査して然として一掃さるるに至月上旬にかけて平町及び近緣起その他の研究をなしたらん、茲に衷心本事業の郊の秘藏家に就て史的寶物尙社寮飯野氏は同會に平滯募集のため來る廿七日の前途を祈念祝福して措かの借覽等をなすべく依賴狀儘者神林復所筆の額一面を兩日四倉座に於て御詠歌、ざる所以なり、一言以てを發したが今廿四日研究會寄贈し鄕土祭當日も一般に映畵大會を開催する筈

女性運動の集ひ
縣聯合女子青年團主催で
廿九日第二校に開催

縣聯合會婦人會及縣聯合女學校の優秀生徒の唱歌遊戲に老人達を喜ばせ午後二時盛最裡に終了した

奉安庫
平町で設計

平第一、第二兩小學校及平き商校への奉安庫建設は明廿五日開かる學安中三壘側に陣取り平商先攻で開始

平商全然安中軍遠征の意氣ー膨せられて二回に一點を入れただけで五回まで得點なく、安中一回の裏に三點、二回二點、四回二點、六回に入つて平商俄然奮起總攻撃の意氣で攻撃に移るも安中の堅陣二點を入れただけで裏安中愈々ラッキーセブン一點三壘打、二壘打で四點を入れ計十二點、八回に移るも早や兩軍ダレ氣味、兩軍得點なし、九く滯積整理の爲差押へを斷行して居るが取分け平町の

豫期以上の成績で
靑訓大演習了る
非常時の覺悟を　調せよ
金成上院議員の祝辭

郡下聯合靑訓秋季發火演習訓あり知事代理の訓示、來第二日の昨二十三日は午前資金成靑族院議員、古川植第二校講堂に於て盛會を九時無事終了、各部隊毎集田小學唱、聯合會長篠山廉氏の挨拶のまゝ同五十分植田小學校に集合、十時二十分戰鬪撤收あつて茲に解散會した

祝辭

本日茲に新嘗祭の佳辰をトし郡下靑年訓練所諸氏の壯烈なる演習を見、親しく其の統率指導の下に演習に參加し、其の勞を犒ふの機會を得たるは余の最も光榮とし欣快とする所であります。今や我が國の現狀は內外共に多事多難國民の等しく奮起して光輝ある皇國をして泰山の安きに置かねばならぬ非常時局に際會して居るのであります、內には世界不況を受けて農村都市の別なく疲弊は其の極に達し產業の不振は一層經濟的不安を增し、又思想方面に於ては種々なる問題が擡頭して他面詭激なる思想が潛行的に社會を混亂せしめ又反動の想が漸次正調を失ひ非合法的行爲を見る等の不祥事の頻發を見て居るのである、一方外には滿蒙事變に關し國際聯盟脫退の止むなきに至り今後國際方面に於ける重大性を孕んで居るのであります。これが難局打開の策として擧國一致自力更生の努力に依ると言へども中就元氣濛濛たるべからざるものの多いのであります。かゝる時局に直面して郡下靑訓大演習を催し一は以て非常時に於ける日本精神の涵養に力め一は以て時局に對する訓練の實を示して靑訓の自覺を促す、また時機を得たるものと云ふべきであります。秋霜二日間に渡る演習に於ける諸氏の嚴肅なる行動は心身の壯健を物語るものにしてこれ實に現下邦國の至寶にしてよく訓練されし結果と喜ぶものであります。治に居て現下忘れず鄕にありては勤勉業に服し研鑽の誠を致して富國の開發に力め一朝有事の日厥起以て邦家の干城の大任を果さる覺悟を以て國民の待望に答へられんことを望むのであります。諸氏の演習に對し滿腔の敬意を表すると同時に本素の希望の一端を披瀝して祝辭となします。

昭和八年十一月廿三日

貴族院議員　金成　通

學校看護婦
平で參考資料蒐集

平で參考資料の學校看護婦常年の祝賀式遙拜を行ふ置は既報の如く大体來年度より實施されるので平第一會議室に於て田島町長に返り咲いた樫村慶氏の祝賀を兼ねた送別會を開いた出發は明廿五日午前十一時十八分である

比較的有利な農家の副業として

養兎

共同

販賣

傾向にある養兎は平洋村の如き殆ど家毎に飼つて居り小學校では養兎組合を創設、毎年相當な利益をあげて居るが今頃の販賣が最も有利なので來る廿七日午前九時から小學校庭に於て今年度第一回の共同販賣を行ふ事につたが標準重量六百五十匁で相場は一貫目につき一圓二十錢であると

第二校庭擴張
收容兒童の激增に伴ひ
地主に買收交涉

昭和六年新築以來滿三年を經過今般亦兒童增加に伴つて九敎室增築工事を完了した平第三小學校では第一第二兩校からの分割收容等によると工費五萬圓位で出來上る豫算であると

小濱防波堤
二倍に延長申請

植田町小濱漁港修築工事は目下順調に進んで居り來春三月末竣工の豫定であるが現在の防波堤は延長五十五米では激浪の際に之が用をなさぬので經費五萬圓で兩端に二十五米宛五十米の延長方を二十六日縣を經て內務省に陳情する事になつた

大日本相撲
明日平町で興行

過般の明治神宮競技に於て日本選手權を獲得した高砂男女の川を大關とせる大日本相撲百五十名は明二十五日平署東に於て興行する

植田上水道
簡易な設計進む

植田町では先年來上水道敷設の必要を論議されてゐた事になつた

（五丁目）酒井常吉、（新川町）諸橋國松、（搔槌小路）長谷川浩太郎、（南町）山下芳久（五丁目）諸橋久太郎、（横鄕市）齊藤又三郎

代理大谷直次郎

米價一時落調？
收穫の終つた地方農家
新米の現金化を焦る

地方の新米は昨今愈々出廻り米價は一時低落するではないかと觀られて居る

級友の爲に
除隊兵歡迎
第三女生の心ばえ

立川飛行隊勤務平町鎌田町下河原十八木村忠雄君は一昨廿二日午後三時十七分着長磐女各係敎諭であると

女敎員實業補習　縣主催

實業補習學校女敎員實務講習會は來月七日より四日

平商が最多を占む
滯納整理の稅務出張所
日下町內の差押へ斷行

平稅務出張所では既報の如く滯納整理の爲差押へを斷行して居るが取分け平町の

町村長幹事會は來る六日午前十時より平町會議室に於て開き本會及各町村との事務連絡打合せをなすと

爆藥　內鄕村大字宮字峰根五七請負業志賀貞次郎（五二）は去月上旬より鑛山甲ダイナマイト一貫目及導火線（十米）二把を同村日本鑛鑛務所に隱匿同月十五日まで使用して居た事此程平署に發覺銃砲火藥取締法として目下取調べ中

喪中諸慶事

役場で注意書配布

朝香宮妃殿下薨去につき來るゝも可なり

飯野古文書研究
第二の職員一行十六名
けふ八幡宮へ

縣社飯野八幡宮は今廿公開する筈

磐中平商枕を並べて
―遠征安積軍に屠らる
今季の掉尾を飾つた昨野球戰

今シーズンの掉尾を飾る既報安積中學新A遠征軍對磐中、平商戰は昨二十三日行はれた、此の日曇天寒からず又暑からず程よき試合日和、安中對平商戰は午前十時三十三分早くも詰めかけた觀衆平商一壘側の四百二十九坪を以て運動場の擴張をなすべく左記五名の地主に對し一坪三圓の割で買收の交涉を進める事になつた

入れず計三對十二Aで安中堂々優勝閉戰、午後時四十分スコアは

平0100020003
安3202014012

審判は石坂（球）水竹、熊、

磐城野球
中坂野林澤原山橋子部田上草小金西秋高增阿吉田訓導引率の下に驛頭に出迎へ歡びを共にした

樫村氏出發
平町役場

では廿二日午後六時から會議室に於て田島町長に返り咲いた樫村慶氏の祝賀を兼ねた送別會を開いた出發は明廿五日午前十一時十八分である

比較的有利な農家の副業として

養兎

共同

販賣

傾向にある養兎は平洋村の如き殆ど家毎に飼つて居り小學校では養兎組合を創設、毎年相當な利益をあげて居るが今頃の販賣が最も有利なので來る廿七日午前九時から小學校庭に於て今年度第一回の共同販賣を行ふ事につたが標準重量六百五十匁で相場は一貫目につき一圓二十錢であると

チブス豫防
九名續發の
植田で豫防注射

植田町小濱漁港修築工事は目下順調に進んで居り來春三月末竣工の豫定であるが現在の防波堤は延長五十五米では激浪の際に之が用をなさぬので經費五萬圓で兩端に二十五米宛五十米の延長方を二十六日縣を經て內務省に陳情する事になつた

宿料踏倒し
栃木縣

鹽谷郡熱田村生れ自稱安達郡宮川村大字高玉一〇二添田末吉（三四）は去る十一日午後五時頃平町字立町四　木賃宿松本ミツ方に投宿宿料二十錢を踏倒して逃走中廿三日平署に檢擧された

町村
長幹事會
六日午前
事會

縣下十七郡町村長幹事會は來る六日午前十時より平町會議室に於て開き本會及各町村との事務連絡打合せをなすと

爆藥　內鄕村大字宮字峰根五七請負業志賀貞次郎（五二）は去月上旬より鑛山甲ダイナマイト一貫目及導火線（十米）二把を同村日本鑛鑛務所に隱匿同月十五日まで使用して居た事此程平署に發覺銃砲火藥取締法として目下取調べ中

ある第三校尋常六年生木村米子さんの同級生七十名は吉田訓導引率の下に驛頭に出迎へ歡びを共にした

樫村氏出發
平町役場

では廿二日午後六時から會議室に於て田島町長に返り咲いた樫村慶氏の祝賀を兼ねた送別會を開いた出發は明廿五日午前十一時十八分である

比較的有利な農家の副業として

養兎

共同

販賣

傾向にある養兎は平洋村の如き殆ど家毎に飼つて居り小學校では養兎組合を創設、毎年相當な利益をあげて居るが今頃の販賣が最も有利なので來る廿七日午前九時から小學校庭に於て今年度第一回の共同販賣を行ふ事につたが標準重量六百五十匁で相場は一貫目につき一圓二十錢であると